

令和5年度(2023 年度) 北海道拓北養護学校 学校評価(まとめ)

【自己評価及び保護者評価】

評価内容	自己評価		保護者評価		改善策
	R4	R5	R4	R5	
1 「未来を拓く」 ◇一人一人を大切に学校づくり					・人権意識について、今後も児童生徒が安心して学ぶことができるよう、教職員一人一人が日々の言動を振り返り、発達年齢を踏まえた関わり方についてなど、児童生徒の人権尊重の意識を一層醸成して行く。また、働きやすい職場環境、協働を目指し同僚性を高める取組を意識していく。 ・教職員の教育課程の理解に課題が見られる。本校の教育課程の整理と丁寧な確認を全校研修や学部研修等を通じて行い、日々研鑽に努める。また、各教育計画を確実に実行し、保護者への丁寧な説明に努める。 ・安心安全な学校づくりのため、学校課題の一つとして掲げ、各危機管理マニュアルの見直しと全校での丁寧な確認が肝要。 ・キャリア教育については課題評価が続いている。学部間での意識の差も課題となっている。各学部段階でのキャリア教育を再確認すること、一人一人の将来を見据えた長期的な視点を持ち、指導の充実を目指す。各教育計画や懇談等を通して、保護者と共有し取り組みを進める。 ・教育活動の質を高めることを目的とした「働き方改革」の推進に努める。各業務内容を洗い出し整理をすること、業務分担と細分化と適正な分担に努める。校務の情報化と一元化、継続した同僚性の構築を図る
(1)いじめや体罰のない安心できる学校づくり (人権尊重)			▲		
(2)個別のニーズや課題に応じた指導の充実					
(3)健康で安全・安心な学校生活を送ることができる環境整備 *①医療的ケアに関すること ②摂食指導に関すること ③段階食に関すること				▲	
(4)学校事故の未然防止				▲	
(5)児童生徒一人一人の将来を見据え、小中高一貫したキャリア教育の推進 *①知識・意欲・態度の育成にかんすること。 ②進路支援、進路学習に関すること	▲	▲	▲	▲	
(6)業務に専念できる環境の整備	▲	▲	/	/	
2 「学校を開く」 ◇家庭、地域、関係機関から信頼される学校づくり					・コミュニティスクールを軸にした「地域とともにある学校づくり」に向けて、地域との繋がりを活かした教育活動、PTA 活動の発展充実に努め、新たな活動の提案ができるよう推進する。家庭・地域と連携した防災と危機管理についても強化していきけるように取組を進めていく。 ・居住地交流学習や学校間交流については、完全ではないが取組を再開できたところもある。今後も実施方法については、相手校と相談し工夫をしながら、学びと交流の継続に努める。 ・様々な繋がり方の工夫をし、積極的に情報発信に努めてきている。保護者へ発信した内容についての丁寧な説明は必須であることは次年度も確認していく。また、情報共有時に必要な確認事項の整理と校務の情報化についても計画的に推進していく。
(1)学校運営協議会を中心にしたネットワークづくり			▲	▲	
(2)地域における存在感のある学校づくりへ理解促進 (地域とのつながりを重視した活動促進) *①地域とのつながりに関すること ②家庭地域と連携した防災と危機管理に関すること		▲		▲	
(3)卒業後の自立と社会参加に向けた教育の充実 *①生涯学習、共同及び交流学习 ②関係機関との連携、実習の充実		▲		▲	
(4)センター的機能の発揮			/	/	
(5)教育活動の情報発信の工夫					
3 「自己を啓く」 ◇安全・安全で質の高い学びある学校づくり					・また、アフターコロナの取組として、再開された教育活動も増えてきている。全体及び個々の専門性向上に向けた研修機会の確保に努める。 ・根拠ある授業作りと教職員の専門性は、表裏一体である。また、今年度も実施した個別の教育課程検討会で確認された結果をもとに、児童生徒のつきたい力の具体化とそこに向けた授業の分析と評価、改善の重視に努める。 ・児童生徒の一人一人の学びの質の向上につながるよう、教育活動全体を通して自立活動教諭との連携を深めながら取り組んでいく。 ・授業実践での効果的な活用法の研修と共有、個々のスキルアップに向けた研修機会の確保に努める。 ・教育公務員としての役割と使命の自覚と高い意識をもち取組を継続する。
(1)特別支援教育、肢体不自由教育に関する専門性の向上	▲		/	/	
(2)根拠ある授業づくりの工夫と実践			▲		
(3)自立活動の指導の充実	▲				
(4)ICT 機器を活用した教育の推進					
(5)服務規律の保持			/	/	

※▲・・・自己評価:8割以下 保護者評価:前年度比から評価が下がった項目

【課題解決策とまとめ】

【令和5年度・重点目標】 学びに向かう基礎的環境の整備・充実	
重点課題	具体的な改善策
1 「未来を拓く」 ◇一人一人を大切に作る学校づくり (1)人権尊重 いじめや体罰のない安心できる学校づくり (2)個別のニーズや課題に応じた指導の充実 (3)健康で安全・安心な学校生活を送ることができる環境整備 (4)学校事故の未然防止 (5)児童生徒一人一人の将来を見据え、小中高一貫した教育の推進 (6)業務に専念できる環境の整備	①コンプライアンス意識の醸成（各研修の実施） 気になる指導、マルトリートメント行為の防止徹底 ②教育課程の整理、理解のための研修 ③医療的ケア研修の充実と校内体制づくりの推進 給食改善に向けた具体的取組実践と全体共有 ④危機管理マニュアル、学校安全計画の定期的な見直し、全体研修で防災防犯意識の組織的向上 ⑤各学部段階での自立感やキャリア発達を踏まえた学習内容の検討と研修の継続 ⑥各分掌・委員会等の業務内容の洗い出しと整理。校務の情報化と一元化、業務分担の細分化と適正な分担、同僚性の構築
2 「学校を開く」 ◇家庭・地域・関係機関から信頼される学校づくり (1)学校運営協議会を中心にしたネットワークづくり (2)地域における存在感のある学校づくりへの理解促進（地域とのつながりを重視した活動推進） (3)卒業後の自立と社会参加に向けた教育の充実 (4)センター的機能の発揮 (5)教育活動の情報発信の工夫	①コミュニティスクールを軸にした、協働体勢の整備 家庭・地域・関係機関と連携した防災体制の強化 新たな PTA 活動の提案と協働 ②関係機関との継続的な連携 ③各学部のつながりと社会参加を見据えたキャリア視点をもった取り組みの推進 ④関係機関への相談支援、Co の役割共有 ⑤積極的な情報発信と校務のさらなる情報化 情報化に向けたルールの整備
3 「自己を啓く」 ◇安全・安全で質の高い学びある学校づくり (1)特別支援教育、肢体不自由教育に関する専門性の向上 (2)根拠ある授業づくりの工夫と実践 (3)自立活動の指導の充実 (4)ICT 機器を活用した教育の推進 (5)服務規律の保持	①全体及び個々の専門性向上に向けた研修機会の確保 ②児童生徒のつきたい力の具体化とそこに向けた授業の分析と評価、改善の重視 ③自立活動の指導内容についての整理と研修 個々の生活に根差した実践の充実 ④授業実践での効果的な活用法の研修と共有 ⑤教育公務員としての役割と使命の自覚
ま と め 今年度から新たに学校教育目標を設定し、目指す「子どもの姿」として、「しなやかに育つ拓北の子」を育成するために、地域・保護者等と連携し、「豊かな生活」を育むことができる力を養うことを最終的な目標として、教育活動を推進してきた。今年度も学校評価の結果から、それぞれの取り組みを振り返り、課題となる事項については次年度の教育活動に向けた手がかりとして、全校で確認していきたい。 自己評価について、大きな変動はなかったものの、根拠ある教育実践については項目ごとに分析をすると課題意識が高いと読み取れる。本校の教育課程の整理と丁寧な確認を全校研修や学部研修等を通じて行い、日々研鑽に努めること、個別の教育課程検討会で確認された結果をもとに、児童生徒のつきたい力の具体化とそこに向けた授業の分析と評価、改善の重視に努めることが肝要である。教育活動の情報発信については、今年度も肯定的な評価を維持している。次年度に向けては継続した教育活動の積極的な発信と合わせて、校務の更なる情報化とルールの整理に努める。また、ICT を活用した教育の推進については、授業実践のための活用法について研修し職員間で共有している。個々のスキルアップ向上を目指すと共に、深い学びへとつなげていけるよう取組を推進していく。 安心安全な学校生活に向けた環境整備について、キャリア教育、働きがいのある職場づくりについては、今年度も低評価となっている。安心安全な学校づくりのため、学校課題の一つとして掲げ、各危機管理マニュアルの見直しと全校での丁寧な確認に努める。キャリア教育については、学部間での意識の差も課題となっている。各学部段階でのキャリア教育の再確認と、一人一人の将来を見据えた長期的な視点を持ち、指導の充実を目指していきたい。職場環境の整備については、あくまでも教育活動の質を高めることを目的とした「働き方改革」の推進に努める。各業務内容を洗い出し整理し、業務分担の細分化と適正な分担に努める。合わせて校務の情報化と一元化、継続した同僚性の構築を図っていく。 保護者評価については、昨年度比で六つの項目の評価が下がり、他は上昇と昨年度評価を維持する結果となった。学習の目標設定、個々の状況に応じた教材・教具の工夫については肯定的な評価となっていたが、学習内容が将来の自立につながるものかとの問いについては、0、2評価が下がる結果となっている。「なぜ」学んでいるのかについての説明が十分にできていなかった結果と読み取れる。一人一人の課題を共有し、将来を見据えた学習内容について、丁寧な説明が求められている。安心できる学校づくりのための取り組み、特に防災・防犯と危機管理については、「分からない」と回答している保護者が他の項目に比べて多くみられた。家庭・地域と連携した防災体制強化に向けた取組について、明確に示す必要性を感じている。PTA 活動については、花壇の苗植えや進路研修などの継続した取組に加え、夏季休業初日に花火大会を開催することができ、アフターコロナの取組として大きな一歩を踏み出している。次年度からは、さらに新しい PTA の在り方に向けて整理していくこととなっている。引き続き、共に協力し合いながら子供たちの学びを支える活動の提案に努める。 今後も、本校の児童生徒の成長を支えるチームとして、保護者・関係機関の方々と学校は、いつでも相談しやすい環境づくりに努める。	